

事務事業名	上川右岸第4排水区浸水対策事業	事業期間	2018 ~ 2023 年度	係内番号	03
担当部署	都市建設部 水道課	下水道整備係	連絡先	656	

計	政策番号	05	基本計画	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高						
			基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0302	下水道の整備方針									
			基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0302	下水道の整備方針									
			実行計画	12	下水道中期ビジョン（下水道事業特別会計）	0202	雨水排水施設の整備推進									
画	予算事業名	上川右岸第4排水区浸水対策事業					会計コード	22	款	01	項	01	目	02	事業	30
	事務事業の概要	1級河川上川の水位上昇に伴い、既設雨水幹線（通称：小江川）の雨水が上川へ放流できなかったため、溢水し浸水被害が発生している。この雨水を上川の水位上昇に影響されことなく放流できるようにするため、強制排水ポンプを整備する。														
	現状と背景	上原区下町地区において、平成18、29、30年度の豪雨により上川水位既設雨水幹線（通称：小江川）が溢水し、近隣住宅等に床上浸水の被害が発生した。平成18年度の浸水被害を受け対策を講じていたが、近年の頻発するゲリラ豪雨、大型台風により既設の対策だけでは、対応できなくなってきているのが現状である。														
	目的	受益者	上原区下町地区の住民、幹線市道の交通利用者および公共温泉施設利用者													
L	対象	対象	内水の強制排水ポンプを築造する。													
	的意	意	内水氾濫を未然に防ぎ、浸水被害を低減する。													
	手段・方法	方法	現地地形測量、浸水シミュレーション、地質調査、詳細設計、工事発注と完成を行う。													
A	評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値									
			1	スムーズな事業の実施	年間事業実施率	%	年間実施事業費/年度予算	100								
			2													
			3													
	変更履歴															
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値										
		1	浸水被害の低減	浸水被害の低減	%	(浸水被害対象件数(21戸)-浸水被害件実績数)/浸水被害対象件数×100	100									
		2	浸水対策工事の進捗	浸水工事進捗率	%	実施済み工事/全体工事×100	100									
		変更履歴														

実	財源内訳	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
		事業費等(a)	円	81,566,574	96,464,104	744,708,000			
		国庫支出金	円	25,400,000	2,227,500	300,000,000			
		県支出金	円						
		地方債	円	23,290,560	0	270,000,000			
	状況	活動指標	年間事業実施率	目標	%	67,176,000	80,000,000		
				実績	%	69,616,800	88,638,546		
			達成率	%	103.63	110.80	-	-	
			-	目標	-				
				実績	-				
		達成率		%	-	-	-	-	
		成果指標	浸水被害の低減	目標	%	100	100	100	
				実績	%	0	90		
			達成率	%	0.00	90.48	-	-	
			浸水工事進捗率	目標	%	100	100	100	
実績	%			0	0				
達成率	%	0.00		0.00	-	-			
備考	強制排水ポンプ設置工事は繰越となったため、成果指標の工事進捗率は0とした。令和2年7月末完了予定。								

事務事業名	上川右岸第4排水区浸水対策事業	事業期間	2018	～	2023	年度	係内番号	03
担当部署	都市建設部	水道課	下水道整備係				連絡先	656

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成変果動指要標因分）析		平成30年7月豪雨により、日本全国的に排水用ポンプの需要が高まり、仮設排水ポンプ設備が十分に手配できなかった。このこともあり、昨年同様の大型台風の影響により、溢水し2年連続で浸水被害が発生してしまった。	近年の台風による浸水被害が、日本各地に広がっている。排水用ポンプの需要が高まり、仮設ポンプ、本体のポンプゲート及びその機器類の需要が高まっている。機器類、ポンプ類の納品状況を把握しながら適切な工事発注と現場運営を行う。		
価値（総合評価課題）	成果	現況測量、浸水シミュレーション、地質調査、詳細設計の委託業務を発注し、完了することができた。	仮設ポンプを設置し排水作業を実施したことで、台風21号の影響による浸水被害を未然に防ぐことができた。また、仮設ポンプの運転等を多く職員で協力して行うことにより、住民の顧客満足度が上がった。			
	課題	浸水シミュレーションにより想定より大容量のポンプが必要になったこと、地質調査により想定より軟弱地盤層が多く、支持層が深い位置にあったことが分かった。これにより、イニシャルコストが増大することが懸念されるが、可能な限りコスト削減策を模索していく必要がある。	小江川の浸水被害をゼロにすることができたが、更に上川沿いにある番匠川にて浸水被害が1件発生した。こちらについても、対応策を検討し、実施していく必要がある。また、全体的な雨水計画も見直しが必要である。			
改革・改善の方向性（ACT）	翌年度方向性	成果 拡充	現状維持			
	コスト	拡大	縮小			
改革の方向性の内容	策	トータル事業費の削減を図るため、2019、2020年度の2箇年に設置する仮設ポンプ費をレンタル費と購入費を混ぜながら、コスト改善を実施していく必要がある。	ポンプゲートについて、コスト改善を実施していく必要がある。			

作成担当者	武井 英昭	武井 英昭			
最終評価責任者	柳沢 昭弘	平沢 幸人			
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日			